

科目ナンバリング	LAAA2BA1J141		
科目区分	APU教養特別科目	対象学年（以上）	1年
科目名称	県大エッセンシャル	単位数	2単位
講義題目	演劇、コミュニケーション、他者理解	曜日・時限	月曜4限
担当教員	四ツ谷 亮子	開講時期	2024年度前期
実務経験のある教員等による 授業科目	該当しない	授業アンケート	対象
到達目標	本学には「多文化社会とコミュニケーション」「言語コミュニケーションと多様性」といった「コミュニケーション」に関する教養教育科目がある。それぞれが、国籍、民族、言語、ジェンダー、階級などの差異に派生する諸問題を認識し、その解決に向けて思考する科目である。そこで、本年度の「県大エッセンシャル(前期)」は、、コミュニケーションの本質を問い直し、他のコミュニケーション関連科目を補強しつつ、文化差以前の問題としての「コミュニケーション」のあり方と様態そのものをテーマとし、「伝えること」と「他者理解」の困難さを原理的に理解することを目的とする。		
授業概要	映画『ちはやふる』の撮影開始に当たって、広瀬すず、真剣佑、上白石萌音ら俳優陣に演技指導した平田オリザ氏から、県大の学生が直接指導を受けられる貴重な機会です。 演劇的手法を導入することで、異文化や他者への接触を「フィクションの力を借りてシミュレートする」手法を学びます。というのも、「演劇は、常に他者を演じることができる」からです。 そのために、 1. 作家・演出者である平田オリザ氏による2回のワークショップを開催する。 2. 平田氏率いる劇団「青年団」のメンバーによる3回のワークショップを実施し、実際に体と頭と言葉を用いたコミュニケーション実践による体験学習をおこなう。 3. 5学部連携科目として、本学5学部代表講師によるさまざまな専門的視点に基づき、コミュニケーションと他者理解に関する講義をおこなう。 4. 演劇的手法に基づいたグループワークをおこなう。 ※平田オリザ氏について： 劇作家、演出家、芸術文化観光専門職大学学長。大学在学中に劇団「青年団」を結成、こまばアゴラ劇場を拠点に活動。1995年『東京ノート』で第39回岸田國士戯曲賞、2003年『その河をこえて、五月』で第2回朝日舞台芸術賞グランプリ。2011年フランス文化通信省より芸術文化勲章シュヴァリエ受勲。その戯曲はフランスを中心に世界各国語に翻訳・出版されている。現在、江原河畔劇場 芸術総監督、こまばアゴラ劇場芸術総監督、豊岡演劇祭フェスティバル・ディレクター、豊岡市文化政策担当参与。2019年より豊岡市日高町に移住、2020年に劇団の新拠点となる江原河畔劇場を設立。コミュニケーションデザインの教育・研究に携わるとともに、日本各地の学校において、対話劇やワークショップを実践するなど、演劇的手法を取り入れた教育プログラムの支援・開発にも力を注ぐ。		
授業計画	※第2回と第3回は、ゲスト講師会のため、開催が通常の曜日・時限と異なり、4月13日（土）の13：00～14：25 / 14：35～16：00 に開催されます！ 第1回：ガイダンス（教養教育センター） 第2回・第3回：平田オリザ氏によるワークショップ<※4/13（土）午後開催> 第4回～第6回：村井まどか氏・（劇団「青年団」）によるワークショップ 第7回：中間まとめ（教養教育センター） 第8回：「前衛演劇に見る身体表現」（日本文化学部担当） 第9回：「ロボットと人間のコミュニケーション」（情報科学部担当） 第10回：「"ことば"と"場"をつなぐ新たな演劇的表現の試み」（外国語学部担当） 第11回：「アート表現と異文化理解 ～進化、宗教、グローバル化～」（教育福祉学部担当） 第12回：「アサーション：自分も相手も大切にすることコミュニケーション」（看護学部担当） 第13回～第15回：グループワークと成果発表（教養教育センター）		
実施方法	ワークショップ、オムニバス講義、グループワーク。		
使用言語	日本語		
授業時間外の学習（予習・復習）	他の教養教育科目や所属学部の専門科目と、自ら関連づける思考を持続させること。各回についてのショートエッセイに取り組む時間を大事にすること。		
履修上の注意	※第2回と第3回は、ゲスト講師会のため、開催が通常の曜日・時限と異なり、4月13日（土）の13：00～14：25 / 14：35～16：00 に開催されます！ 他のコミュニケーション関連科目、多文化関連科目とのつながりを良く意識して受講すること。		

	他のコミュニケーション関連科目、多文化関連科目での受講経験をふまえて、コミュニケーションと多文化理解について再考したい2年生以上にも推奨する。 関連科目：教養教育科目全般と所属学部専門科目。 受講要件：系統づけて受講すること。 その他：ワークショップやグループワークへの積極的な参加、講義での積極的な質問・意見を心がけること。									
成績評価の方法	評価基準： 1. 各回ごとに提出するエッセイ 50% 2. 最終成果発表（グループワーク）30% 3. 積極的な参加・質問・発言・授業貢献度 20% 評価方法：ワークショップやグループワークへの参加・貢献、提出物（授業内容に具体的に触れた内容が求められる）、講義中の質問・意見。									
学問知	1	◎	2		3-1		3-2		3-3	
技能知	4	◎	5		6-1		6-2		6-3	
実践知	7		8	○	9					
教科書	特になし。									
参考書、教材等	1. 平田オリザ（著）『わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か』（講談社現代新書） 2. 平田オリザ（著）『対話のレッスン 日本人のためのコミュニケーション術』（講談社学術文庫）									
交換留学生受講制限	N5/A1									

評価の詳細は学生便覧を参照